

キャリー・ケネディ、エリック・ジルマー 編

長尾恭子、千先康二（陸自80）監修
『軍事心理学』

柴田 幹雄 陸自75

本書は米国で出版された「Military Psychology」の翻訳本である。A4版で300ページ以上の大書である。内容は軍事心理学の歴史から始まり、特殊なストレスを受ける特殊部隊員や潜水艦乗りの心理適性、戦場における戦闘ストレス、帰還後のPTSD、軍における神経心理学者の役割、捕虜生活でのストレス、自殺防止、そのほかいくつかの項目を章立てして解説している。

コンバットストレスが深刻な心理的な傷を与えることは理解されている。ストレスは自らの死傷の恐怖だけではない。狙撃手は自分の射撃で数百以上の敵兵の頭が吹き飛ぶ状況を狙撃眼鏡で視認する。またイラクでは敵兵を撃ち殺した女性隊員が自分分は母として子供に愛情を注ぐ資格があるか不安になったという。敵兵とはいえ人を殺すストレスもまた大きなものであろう。

筆者はルワンダ難民支援に連絡員として参加し、難民キャンプの虐殺事件直後の遺体置き場や血まみれの負傷者を収容した野外病院を目の当たりにした。乱射があつた幼稚園を訪問した際また銃声がして子供たちと一緒に逃げ出したこともあつた。こういった非日常を日常として生活し、帰国しても日本の日常生活に直ちには戻ることができず、家内とかなり喧嘩をした記憶がある。

これらの任務上のストレスに耐えられるためにどのような教育をしてあげばよいか、異常の兆候や症状、心理士の活用はどうすべきかなど、医療従事者ではない指揮官にとつても必読の書である。

なお、本書の監修者、長尾恭子氏は空自幹部で臨床心理士。千先康二氏は医学博士で陸幕衛生部長や自衛隊中央病院長を歴任され、偕行社の評議員でもある。

